VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール

- VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール，1 ページ
- システム リソースの予約，3 ページ

VMware vSphere での Cisco IMC Supervisor のインストール

はじめる前に

VMware vSphere または vCenter に接続するには、管理者権限が必要です。

（注） DHCP を使用しない場合、IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの情報が必要です。

手順

ステップ 1 **VMware vSphere Client** のログイン ダイアログボックスで、ログイン クレデンシャルを入力します。

ステップ 2 [Login] をクリックします。

ステップ 3 [Navigation] ペインで、Cisco IMC Supervisor の導入のために [Data Center] を選択します。

ステップ 4 [File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
[Deploy OVF Template] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [Source] ペインで、次のいずれかの手順で OVF ソース ロケーションを選択します。

- ロケーションを参照し、ファイルを選択して [Open] をクリックします。

- ローカル エリア ネットワーク上の URL から導入します。*FQDN*（完全修飾ドメイン名）を IP アドレスまたはドメイン名に置き換えて、[Next] をクリックします。

ステップ 6 [OVF Template Details] ペインで、詳細情報を確認して [Next] をクリックします。

ステップ 7 [End User License Agreement] ペインで、ライセンス契約を読んでから [Accept] をクリックします。[Next] をクリックします。

ステップ 8 [Name and Location] ペインで、次を実行します。

a) （任意） [Name] フィールドで VM 名を編集します。

b) Cisco IMC Supervisor を導入する [Data Center] を選択して、[Next] をクリックします。

（注） 前の手順で [Data Center] を選択した場合、オプション b は使用できません。

ステップ 9 [Host/Cluster] ペインで必要なホスト、クラスタ、またはリソース プールを選択して、[Next] をクリックします。

ステップ 10 [Datastore] ペインで、Cisco IMC Supervisor VM ファイルを保存するロケーションを選択して、[Next] をクリックします。

ステップ 11 [Disk Format] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンを選択して、[Next] をクリックします。

- [Thin Provisioned format]：データをディスクに書き込むときに、必要に応じてストレージを割り当てます。
- [Thick Provisioned (Lazy Zeroed) format]：シック形式ですぐにストレージを割り当てます。
- [Thick Provisioned (Eager Zeroed) format]：シック形式でストレージを割り当てます。このオプションを使用してディスクを作成する場合、時間がかかることがあります。

ステップ 12 [Network Mapping] ペインで、該当するネットワークを選択して [Next] をクリックします。

ステップ 13 [Properties] ペインで、次の情報を入力し、[Next] をクリックします。

- Root パスワード

  （注） Root パスワードは、指定されていない場合はデフォルト値が設定されません。root としてログインするには、shell admin クレデンシャルを使用する必要があります。

- Shelladmin パスワード

  （注） Shelladmin パスワードは、指定されていない場合はデフォルト値が設定されます。

- 管理 IP アドレス
- 管理 IP サブネット マスク
- ゲートウェイ IP アドレス

管理 IP アドレスと管理 IP サブネット マスクは 0.0.0.0 に設定され、デフォルトで DHCP を使用します。

ステップ 14 [IP Address Allocation] ペインで、[Next] をクリックします。

デフォルトでは、DHCP チェックボックスはオンになっています。

ステップ 15 [Ready to Complete] ペインで、選択されたオプションを確認して、[Finish] をクリックします。

ステップ 16 VM で性能を発揮できるだけの十分な vCPU とメモリがあることを確認します。

ステップ 17 VM の電源を入れます。

ステップ 18 アプライアンスが起動して、スタティック IP の設定を要求されたら、次を実行します。

- DHCP を使用する場合は、n を入力して IP アドレスが自動的に割り当てられることを確認します。
- （注） IPv4 または IPv6 の選択を求められますが、IPv6 は現時点で Cisco IMC Supervisor によってサポートされていません。

  スタティック IP アドレスを使用する場合は、y を入力します。その後 IPv4 または IPv6 の選択を求められます。V4 と入力して IPV4 を設定し、次の情報を入力します。

  - IP アドレス
  - ゲートウェイ
  - ネットマスク
  - DNS サーバ

（注） 現在、スタティック IP アドレスの設定でサポートされているのは IPv4 のみです。

ステップ 19 設定作業を続行するかの確認が求められたら、y と入力します。
続行する前に、アプライアンスの起動を待ちます。

ステップ 20 アプライアンスが起動したら、サポートされている Web ブラウザに（表示される IP アドレスから）Cisco IMC Supervisor の IP アドレスを転送して、[Login] ページにアクセスします。

ステップ 21 [Login] ページでは、ユーザ名の `admin` とログイン パスワードの `admin` を入力します。

（注） この初回のログインの後、admin パスワードを変更します。

次の作業

ライセンスを更新します。

システム リソースの予約

最適なパフォーマンスを実現するために、システムの最小要件を超えた追加のシステム リソースを Cisco IMC Supervisor のために予約することをお勧めします。

（注） システム リソースの予約方法についての詳細は、VMWare のマニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 VMware vCenter にログインします。

ステップ 2 Cisco IMC Supervisor の VM を選択します。

ステップ 3 VM をシャットダウンします。

ステップ 4 VMware vCenter で [Resource Allocation] タブをクリックして現在のリソース割り当てを表示し、[Edit] をクリックします。

ステップ 5 [Virtual Machine Properties] ペインで、リソースを選択して新しい値を入力することで、リソース割り当てを編集します。

ステップ 6 新しいリソース割り当てが設定されたことを確認します。